

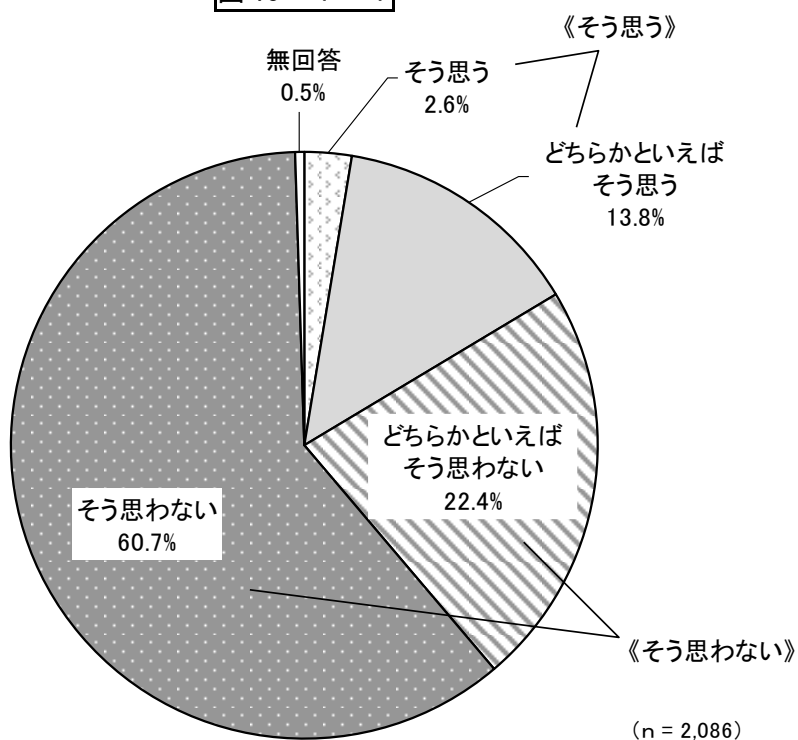
13. 男女共同参画の推進

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

◎ 《そう思わない》が8割を超えている

問34 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方に共感しますか。(○は1つ)

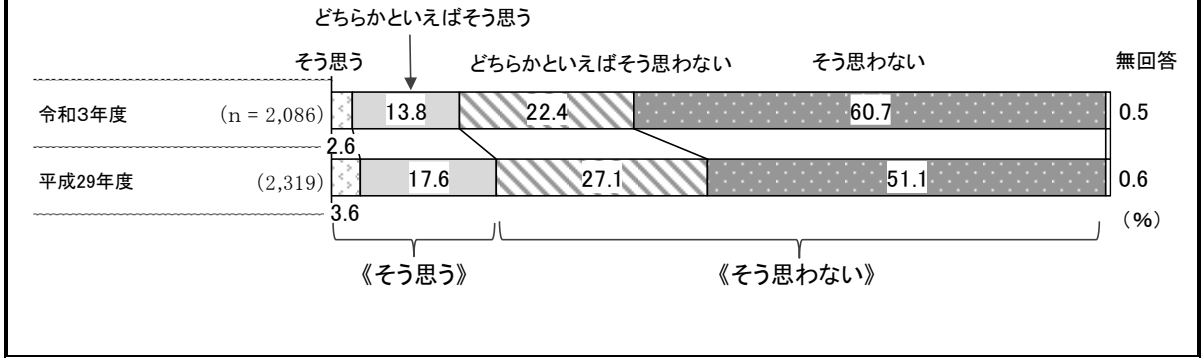
図 13-1-1



<調査結果>

「男は仕事、女は家庭」という考え方について共感するか聞いたところ、「そう思わない」(60.7%)がほぼ6割で最も高く、「どちらかといえばそう思わない」(22.4%)と合わせた《そう思わない》(83.1%)が8割を超えている。「どちらかといえばそう思う」(13.8%)と「そう思う」(2.6%)を合わせた《そう思う》(16.4%)は1割半ばとなっている。(図13-1-1)

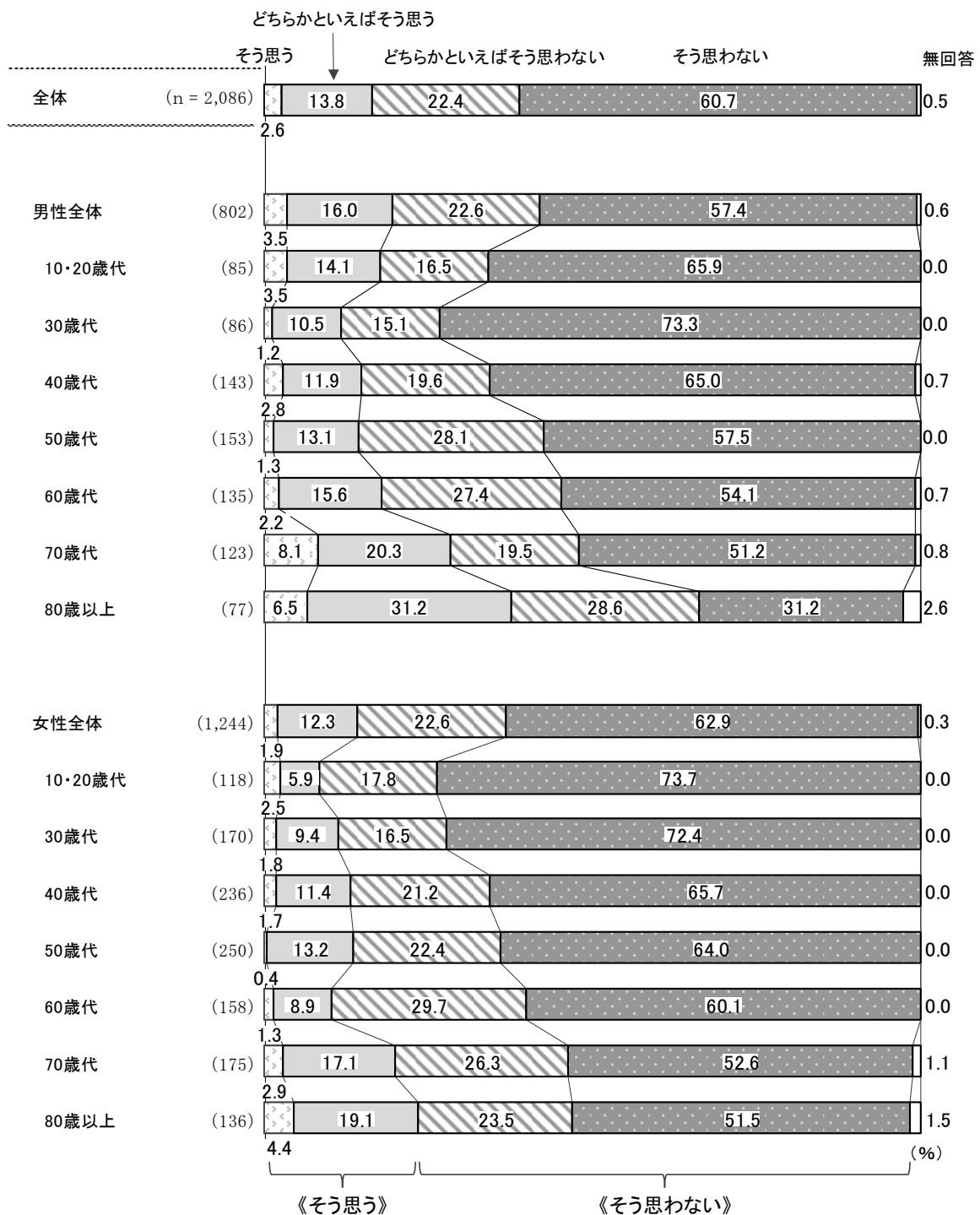
図 13-1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について（時系列）



<調査結果>

平成 29 年度からの時系列の変化をみると、《そう思う》は平成 29 年度（21.2%）から令和 3 年度（16.4%）で減少している。《そう思わない》は平成 29 年度（78.2%）から令和 3 年度（83.1%）で増加している。（図 13-1-2）

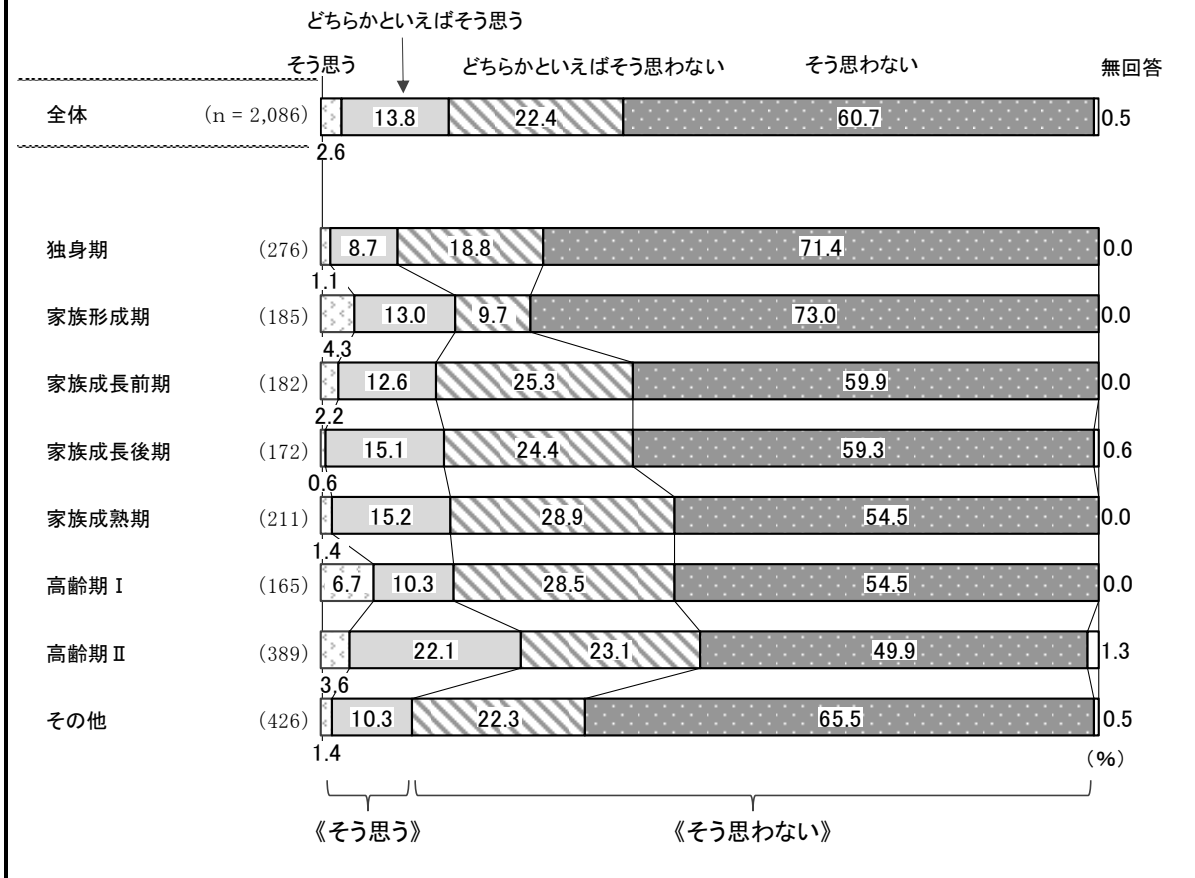
図 13-1-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について（性・年齢別）



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、《そう思う》は男女とも70歳代以上が高く、男性の80歳以上で4割近く、70歳代で3割近く、女性の80歳以上で2割を超え、70歳代で2割となっている。一方、《そう思わない》は女性の10・20歳代で9割を超え、男性の30歳代で9割近くとなっている。（図13-1-3）

図 13-1-4 「男は仕事、女は家庭」という考え方について（ライフステージ別）



〈調査結果〉

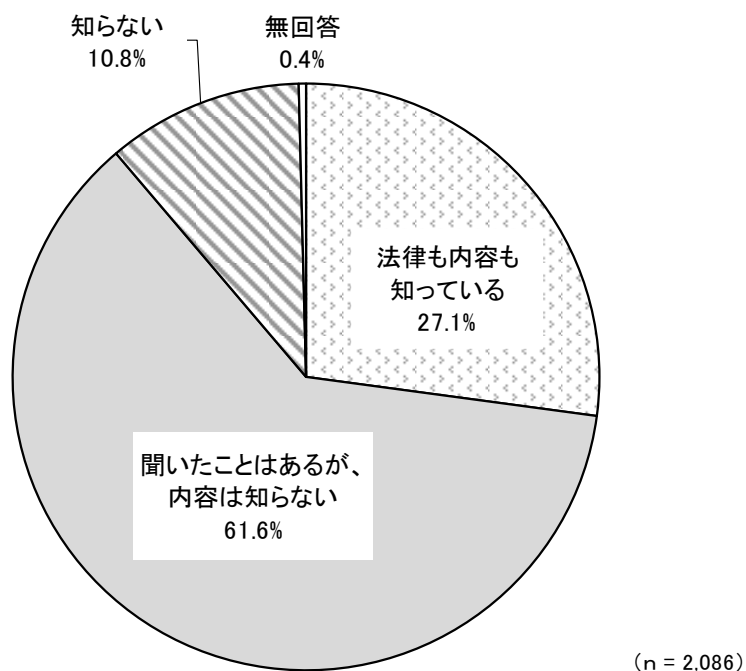
ライフステージ別にみると、《そう思う》は高齢期Ⅱで2割半ばとなっている。《そう思わない》は独身期で9割となっている。（図 13-1-4）

(2) 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度

◎ 「聞いたことはあるが、内容は知らない」が6割を超えている

問35 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」(DV防止法)を知っていますか。(○は1つ)

図13-2-1

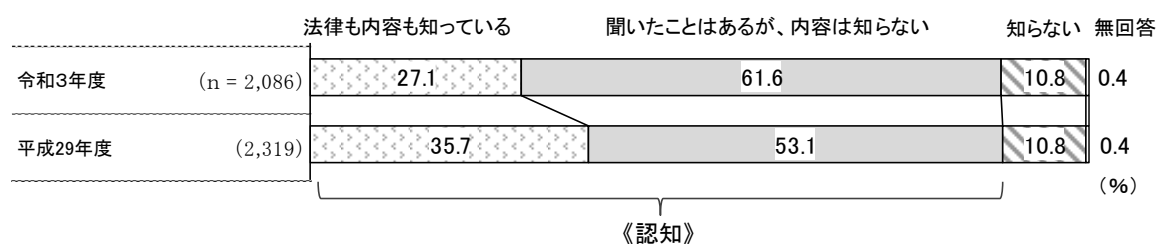


<調査結果>

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度を聞いたところ、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(61.6%)が6割を超えて最も高く、「法律も内容も知っている」(27.1%)は3割近く、「知らない」(10.8%)はほぼ1割となっている。

(図13-2-1)

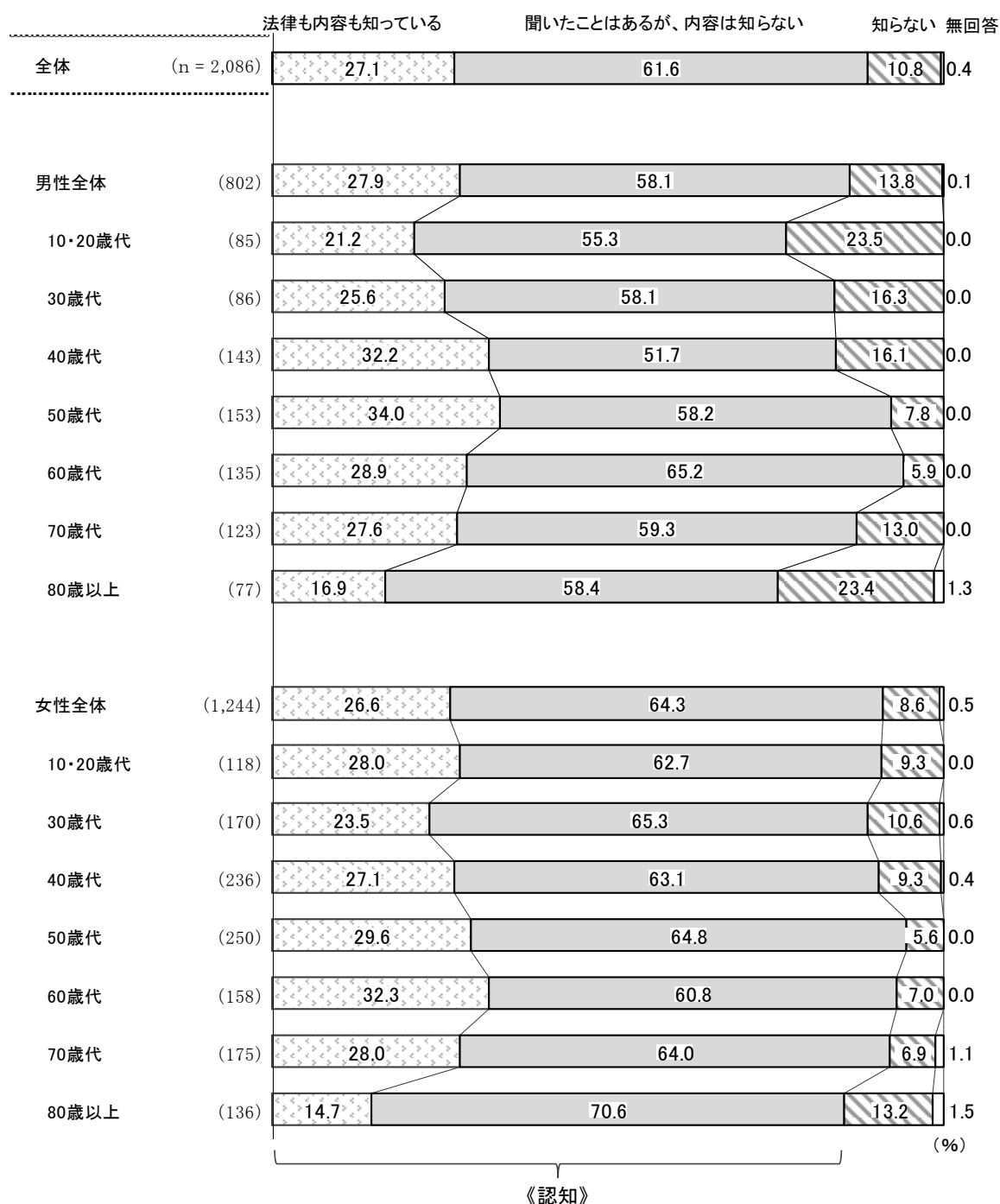
図 13-2-2 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度
(時系列)



<調査結果>

平成 29 年度からの時系列の変化をみると、《認知》は平成 29 年度 (88.8%) から令和 3 年度 (88.7%) で大きな違いはみられない。(図 13-2-2)

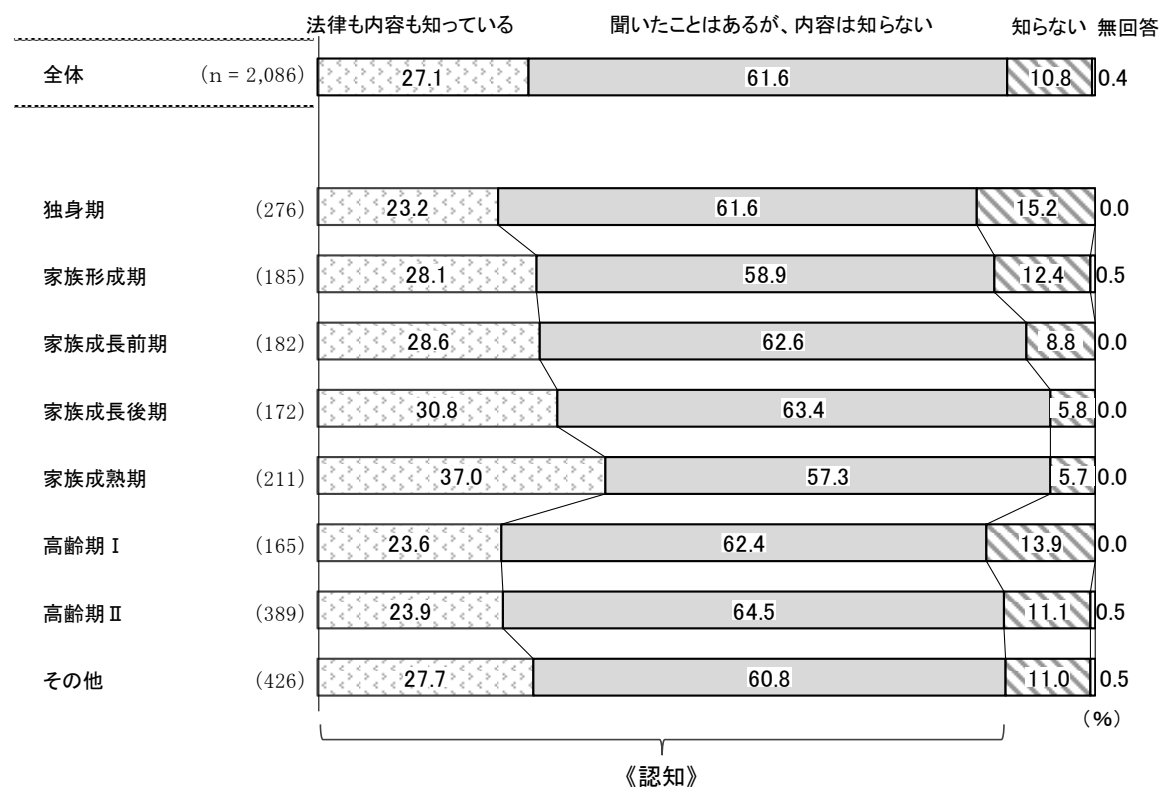
図 13-2-3 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度
(性・年齢別)



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、「法律も内容も知っている」は、男性の50歳代で3割半ば、女性の60歳代で3割を超えている。「知らない」は男性の10・20歳代と80歳以上で2割を超え、女性の80歳以上で1割を超えている。(図 13-2-3)

図 13-2-4 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度
(ライフステージ別)



〈調査結果〉

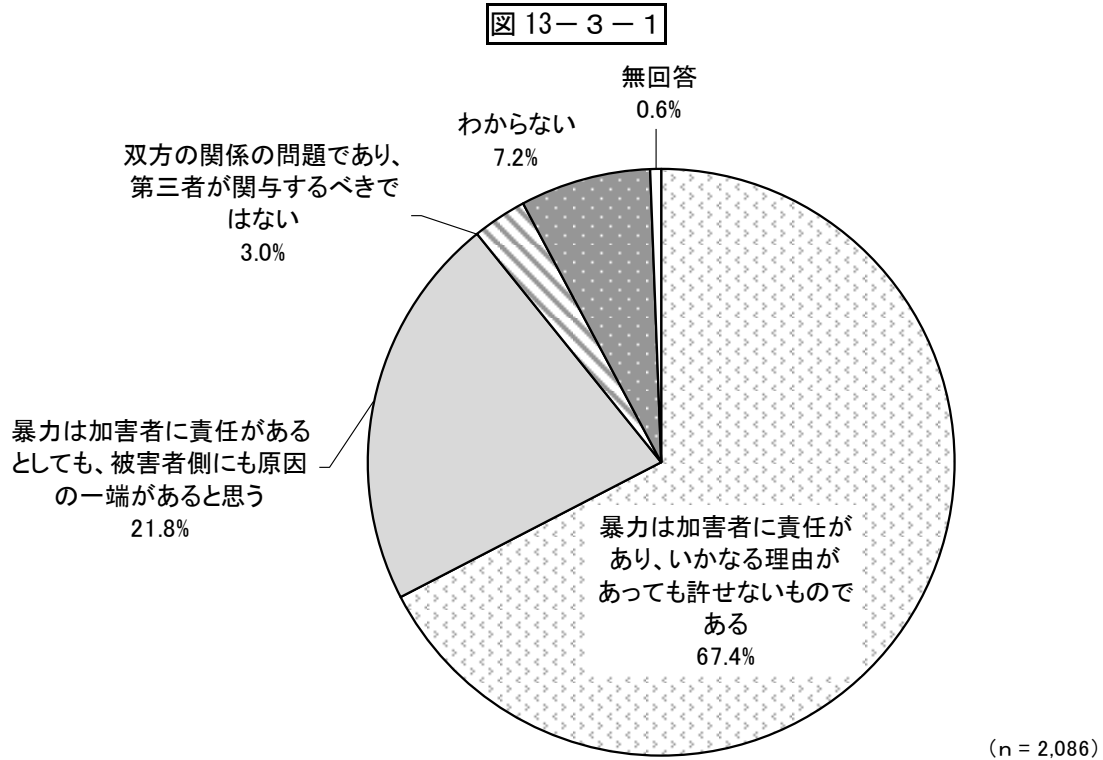
ライフステージ別にみると、「法律も内容も知っている」は家族成熟期で4割近く、家族成長後期でほぼ3割となっている。「知らない」は独身期で1割半ばとなっている。

(図 13-2-4)

(3) 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方

◎「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」が6割半ば

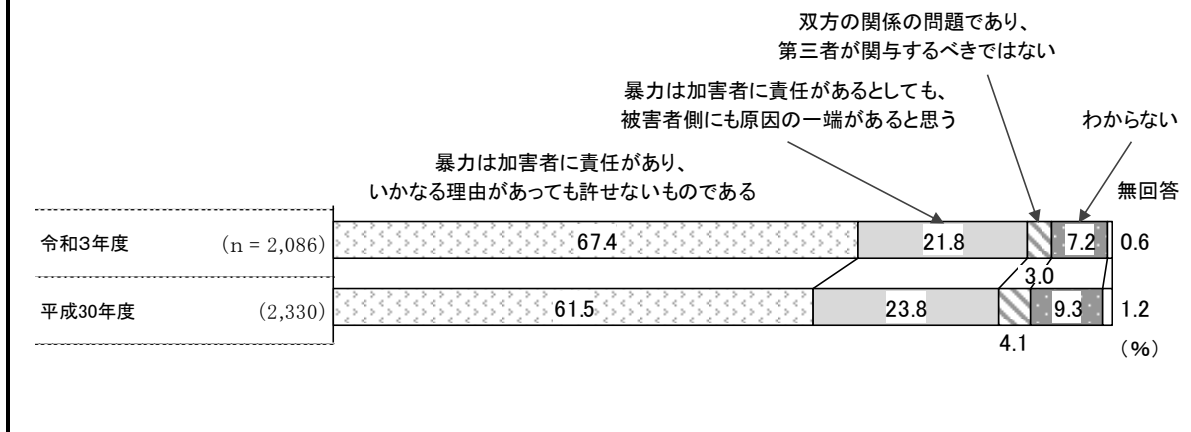
問36 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス＝夫婦（事実婚・離婚後も含む）や恋人という親しい関係で生じる暴力、人権侵害」について、どのようにお考えですか。（○は1つ）



<調査結果>

「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方について聞いたところ、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」（67.4%）が7割近くで最も高く、「暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」（21.8%）が2割を超えている。（図 13-3-1）

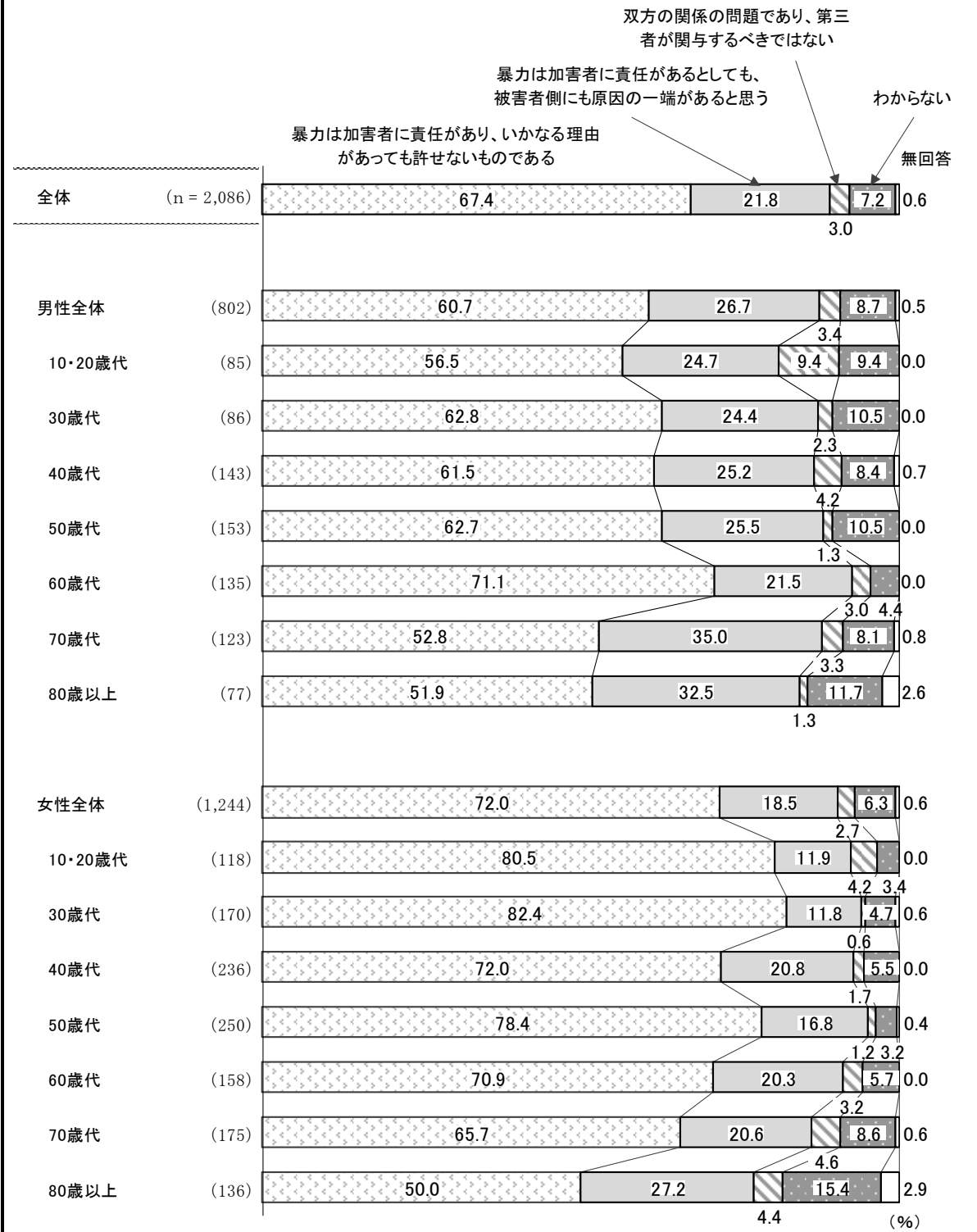
図 13-3-2 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方（時系列）



<調査結果>

平成30年度からの時系列の変化をみると、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」は平成30年度（61.5%）から令和3年度（67.4%）で増加している。（図13-3-2）

図 13-3-3 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方（性・年齢別）



<調査結果>

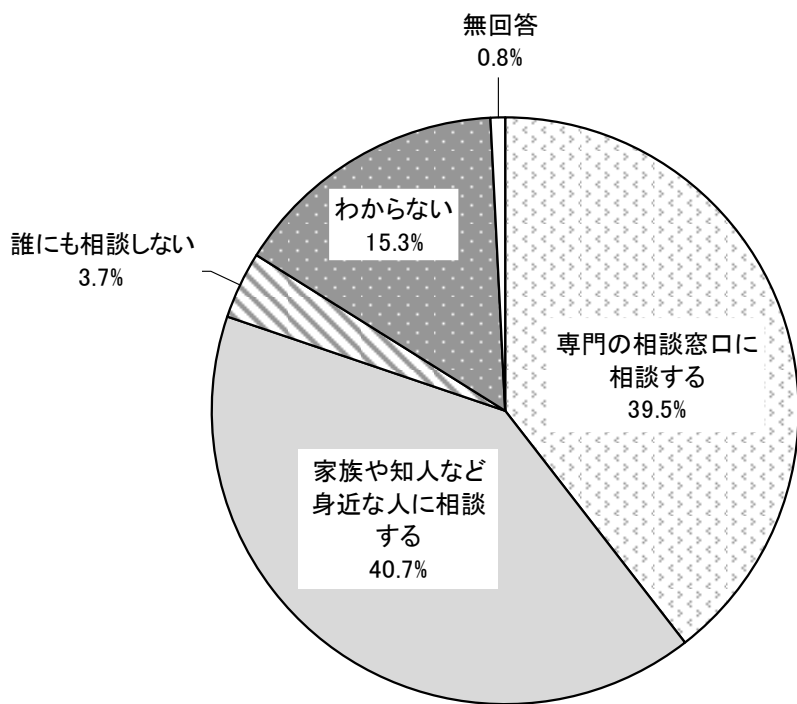
性・年齢別にみると、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」は女性の30歳代が8割を超え、男性の60歳代が7割を超えている。「暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」は男性の70歳代で3割半ば、女性の80歳以上で3割近くとなっている。(図 13-3-3)

(4) DV被害にあったときの相談先

◎「家族や知人など身近な人に相談する」がほぼ4割、「専門の相談窓口相談する」が4割

問37 あなたは、DV被害にあったとき、どのようにしますか。(○は1つ)

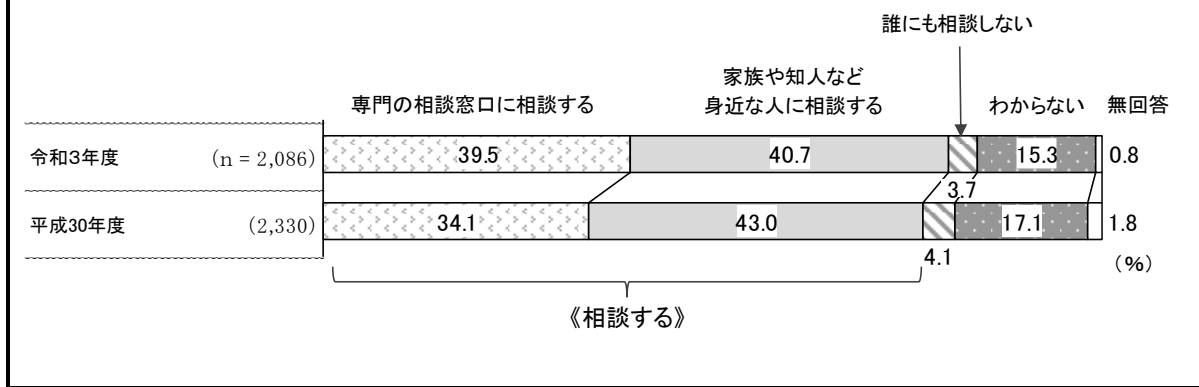
図13-4-1



<調査結果>

DV被害にあったときの相談先について聞いたところ、「家族や知人など身近な人に相談する」(40.7%)がほぼ4割、「専門の相談窓口相談する」(39.5%)が4割となっている。「誰にも相談しない」(3.7%)は1割に満たない。(図13-4-1)

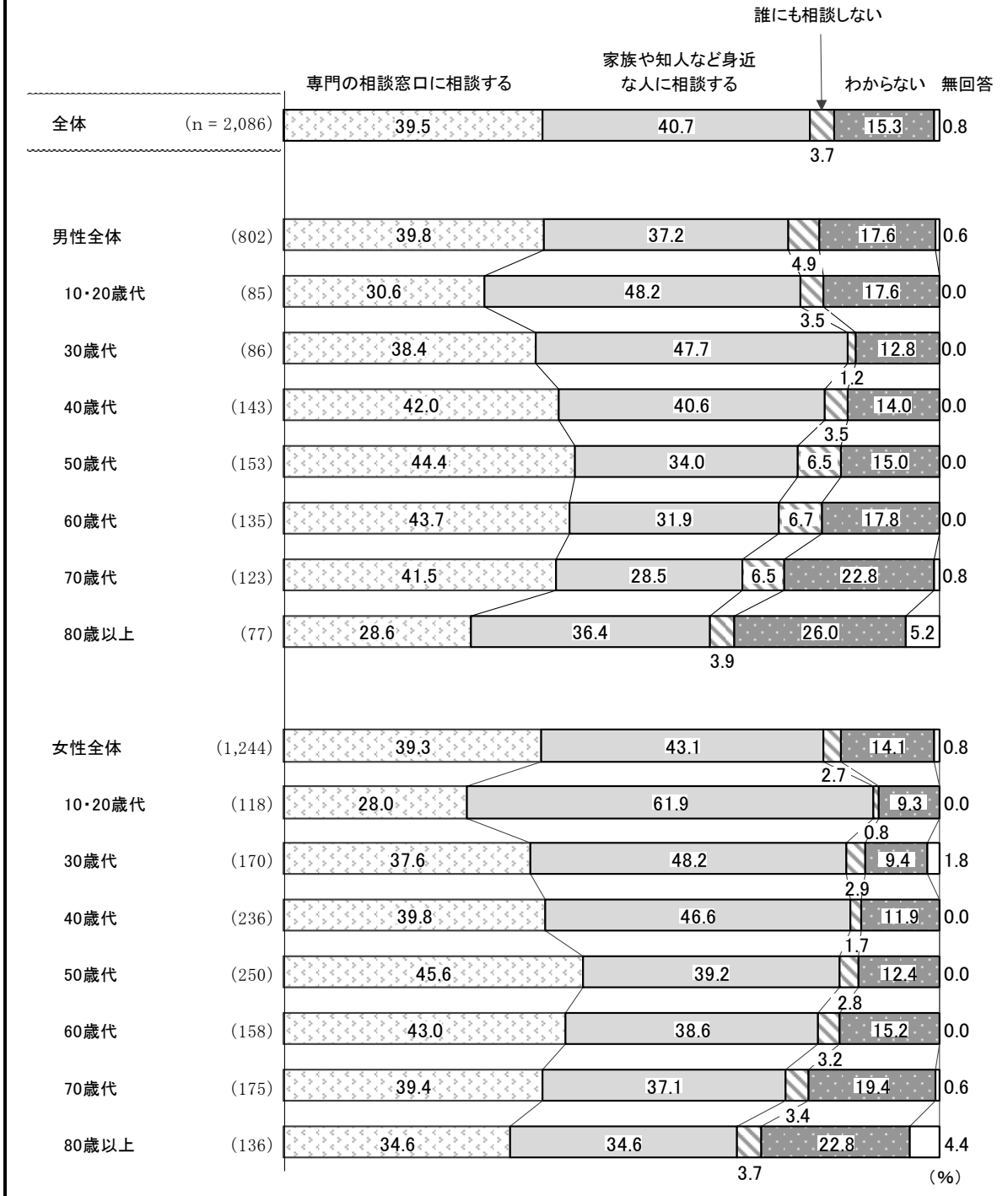
図 13-4-2 DV被害にあったときの相談先（時系列）



<調査結果>

平成30年度からの時系列の変化をみると、《相談する》は平成30年度（77.0%）から令和3年度（80.2%）でわずかに増加している。（図13-4-2）

図 13-4-3 DV被害にあったときの相談先（性・年齢別）



<調査結果>

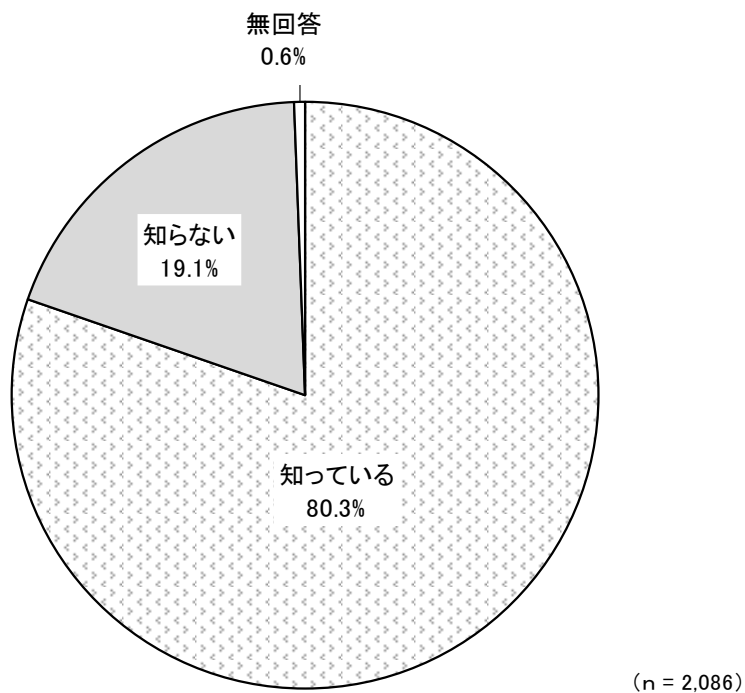
性・年齢別にみると、女性は80歳以上を除いて、「家族や知人など身近な人に相談する」が男性より高く、10・20歳代は6割を超えている。「専門の相談窓口」に相談するは男性は40歳代～70歳代、女性は50歳代～70歳代で「家族や知人など身近な人に相談する」より高くなっている。(図13-4-3)

(5) 性的マイノリティという言葉の認知度

◎「知っている」が8割

問38 あなたは、性的マイノリティという言葉を知っていますか。(〇は1つ)

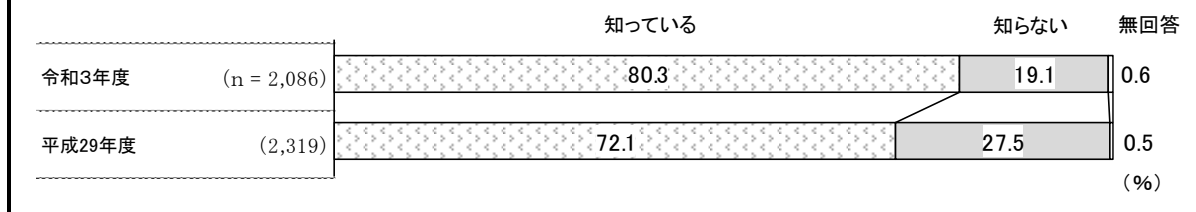
図13-5-1



<調査結果>

性的マイノリティという言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」(80.3%)が8割、「知らない」(19.1%)がほぼ2割となっている。(図13-5-1)

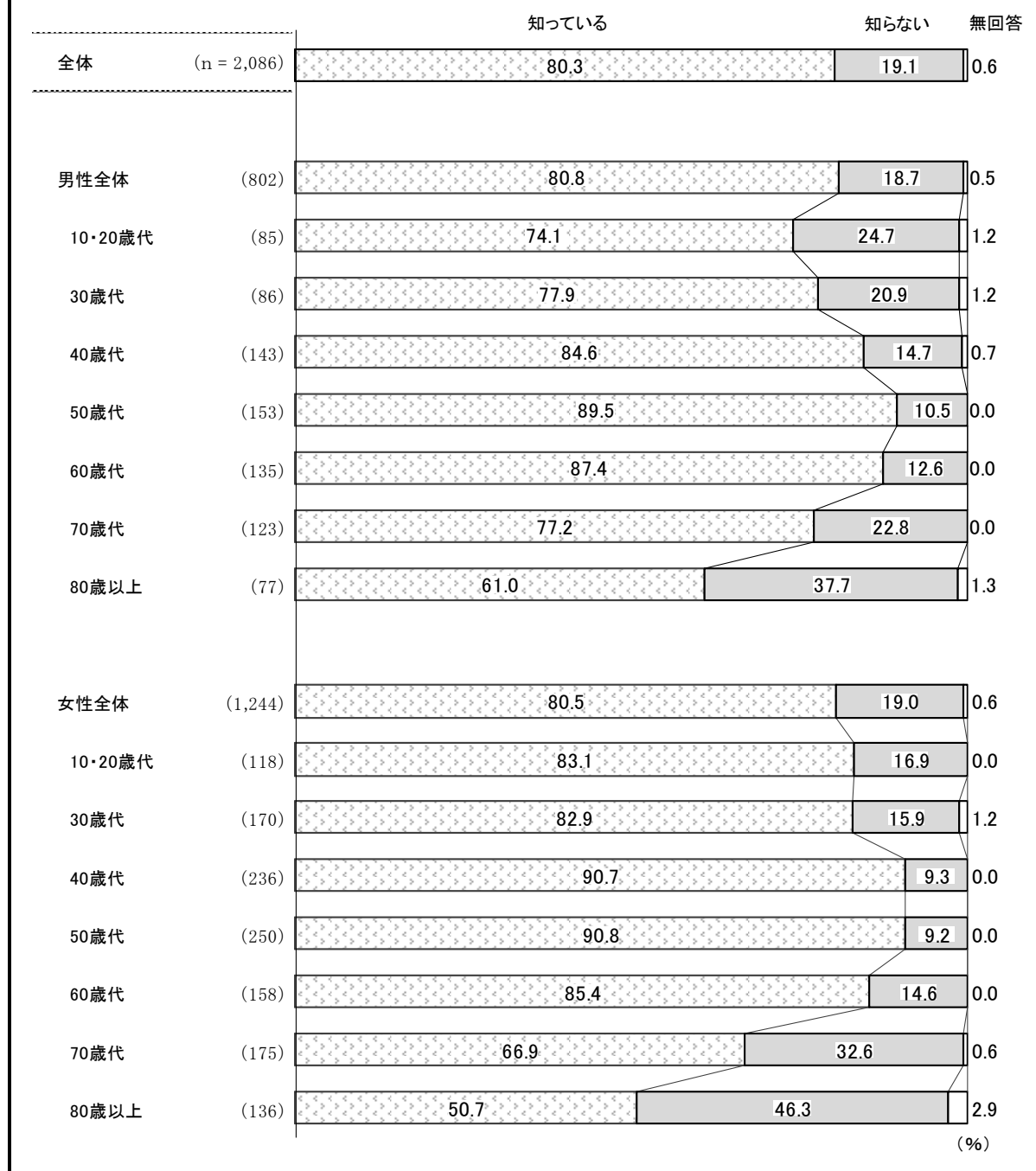
図 13-5-2 性的マイノリティという言葉の認知度（時系列）



<調査結果>

平成 29 年度からの時系列の変化をみると、「知っている」は平成 29 年度（72.1%）から令和 3 年度（80.3%）で増加している。（図 13-5-2）

図 13-5-3 性的マイノリティという言葉の認知度（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別にみると、性別による大きな差異はみられない。「知っている」は女性の 40 歳代、50 歳代がほぼ 9 割、男性の 50 歳代が 9 割となっている。(図 13-5-3)